

## 巻頭言

メディアセンター長 平山孝人

2020年から始まったコロナの影響もそろそろ一段落して、大学における様々な活動もほぼコロナ禍以前に戻ったと言えるでしょう。この2～3年は大学として大変な時期であったことは確かですが、オンライン授業や会議、LMSの更なる活用など、コロナ禍後にも役立つ技術を手に入れることができました。私たち教職員も、出張中の会議参加など、研究・教育・運営の面で色々と柔軟に対応できるようになりました。

学生も自分専用のNotePCやタブレットの保有率が上がり大学に持参する割合が劇的に増え、立教大学においてもいわゆる「BYOD (Bring Your Own Device)」が一般的になってきたようです。これは、大学の無線LANを使うユーザー数(ユニーク端末数)がコロナ禍前の約40,000ユーザー/月から現在では60,000ユーザー/月以上になっていることから明らかです。このような端末数の激増に対応するために、メディアセンターではアクセスポイントの増設や設置場所の最適化などの対応を進めています。ただし、学生の端末充電用のコンセントの増設は容易ではなく、今後の課題となっています。

昨年のセンター報<sup>1</sup>の巻頭言に「この数ヶ月でとんでもないスピードで進化している生成系AIについて触れておきたいと思います」と書きました。その後、AIをめぐる技術は予想をはるかに上回るスピードで進化を続け、最近ではPCだけでなくスマートフォンのOSにも組み込まれるようになり、誰もが簡単に利用できる環境となりつつあります。2023年12月に名古屋で開催された全国ICT推進協議会(AXIES)<sup>2</sup>においても、話題の中心は生成系AIでした。教育への影響ももちろんですが、大学運営、特に組織の効率化・合理化にAIをいかに活かすかについても活発な議論が交わされていました。

これほどの進化のスピードを目の当たりにして今後どのような対応をすべきかは、どの大学も手探りの状態のようです。立教大学においては、大学教育開発・支援センターが生成系AIに関するFDプログラムを開催して立教大学の教育における活用法や「危険性」についての情報を発信しています(ニューズレター「MOVE」第30号・第31号など<sup>3</sup>)。この活動にはメディアセンターも関わっており、「生成系をはじめとするAIの利活用に関する情報」というまとめサイト<sup>4</sup>を作成していますので、是非ご活用いただければと思います。

---

<sup>1</sup> <https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/about/report/SitePages/2022.aspx>

<sup>2</sup> <https://axies.jp/conf/axies2023/>

<sup>3</sup> <https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/move.html>

<sup>4</sup> [https://spirit.rikkyo.ac.jp/generative\\_ai/SitePages/index.aspx](https://spirit.rikkyo.ac.jp/generative_ai/SitePages/index.aspx)

昨年の巻頭言には「立教大学について教えてください」というプロンプトで ChatGPT が出力した文章を載せました。1年前は明らかな誤りが多く、まだまだ使えるレベルではないことが明らかでしたが、最近、特に2024年5月にリリースされた GPT-4o では情報の正確度も上がり、また日本語の自然さも大きく改善しています。そのため、出力に含まれる間違いに気がつかないリスクが増しています。我々としてはこのような「まだ100%ではない」レベルの生成系 AI を使うには注意が必要であることを強く認識しておく必要があるでしょう。メディアセンターでは大学教育開発・支援センターなどとも連携し、AI の恩恵を活用しつつ、教職員・学生に対する AI リテラシーの向上を図り、安全で効率的な環境の提供を続けていくつもりです。

このセンター報はメディアセンターのこの1年間の活動をまとめたものです。ざっと目を通していただければ、メディアセンターが ICT 基盤の整備や運用だけでなく、大学運営や教育にも深く関わっていることが分かっていただけたと思います。今後も学生・教職員の声を大切にし、便利な環境を維持していくための努力を続けていきます。更なる発展のためにはユーザーの皆さんからのフィードバックが必要です。是非とも忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたします。